

# Lesson 116

## 👉 関係代名詞：主語になる場合

最初に、who、which、thatなどの「関係代名詞」の使い方について学習します。「彼」という代名詞に、he（主格）、his（所有格）、him（目的格）という3つの格があるように、関係代名詞にも3つの格があります。

先行詞	主格	所有格	目的格
人	who that	whose	who(m) that
人以外	which that	whose	which that

(注)「先行詞」とは形容詞節に修飾される名詞のことです。

まずは、「主格」の関係代名詞について見てみましょう。「主格」の関係代名詞は形容詞節の「主語」(S) になります。主語の後ろには動詞 (V) が置かれるので、この形容詞節は次の構造になります。

先行詞	形容詞節	意味の取り方
人	who that   + V... S	すなわちその人(達)はV...だが
人以外	which that   + V... S	すなわちそれ(ら)はV...だが

Ch.  
11

形容詞節を「すなわち～」と訳し下げて意味を取るのがポイントです。少し練習してみましょう。

people **who are friendly and outgoing**  
先行詞 S V

形容詞節 (=先行詞の説明文)

⇨ 人達・すなわちその人達は・気さくだ・そして・社交的だ  
→ 気さくで社交的な人達

\* whoの代わりにthatを用いることもできます。

この例の who は、複数名詞 people を置き換えたものなので、動詞が are になっています。赤枠の形容詞節が「文」として成立している点に注意してください。次は、先行詞が「人以外」の場合を見てみましょう。

a train      that stops at every station  
 先行詞      S      V

形容詞節 (=先行詞の説明文)

⇒ 列車・すなわちそれは・停まる・全ての駅で

→ **どの駅にも全て停まる列車**

\* that の代わりに which を用いることもできますが、which は正式な文書などで用いるフォーマルな語で、日常的には that を用います。

上記の that は、三人称の単数名詞 train を置き換えたものなので、動詞の stop には三単現の s が付いています。形容詞節全体が「文」として成立している点に注意しましょう。形容詞節の構造を理解するためには、⇒ の和訳のように訳し下げて意味を取ることが大切です。それでは、上記2つの「先行詞+形容詞節」を使った例文を見てみましょう。

① **We only employ people who are friendly and outgoing.**

⇒ 私達はただだ・雇っている・人達を・すなわちその人達は気さくで社交的である。

→ **うちは気さくで社交的な人しか雇いません。**

\* only はしばしば主語と一般動詞の間で用います。

② **Be sure to board a train that stops at every station.**

⇒ 確実にしてください・乗ることを・列車に・すなわちそれは停まる・全ての駅で。

→ **必ず各駅停車の列車に乗車してください。**

次の例文のように、先行詞が文の主語になる場合は、主語(S)と述語動詞(V)の間に距離ができるので、文の構造を見失わないように注意してください。

③ Everything that has a beginning has an end.

S  
先行詞

形容詞節

V

⇒ 全てのこと・すなわちそれは持っている・始まりを・は持っている・終わりを。  
→ 始まりのあることには全て終わりがある。

●● VOCABULARY

- |   |   |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> <b>employ</b> [ɪmˈplɔɪ]<br><br><input type="checkbox"/> <b>friendly</b> [ˈfrɛndli]<br><br><input type="checkbox"/> <b>outgoing</b> [aʊtˈɡoʊɪŋ]<br><br><input type="checkbox"/> <b>be sure to Vb</b> [ʃʊə   ʃʊ:<br><br><input type="checkbox"/> <b>board</b> [bɔ:rd]<br><br><input type="checkbox"/> <b>beginning</b> [bɪˈɡɪnɪŋ]<br><br><input type="checkbox"/> <b>end</b> [ɛnd] | <p><b>動</b> …を雇う、…を雇用する、…を採用する<br/>(<b>名</b> <b>employment</b> [ɪmˈplɔɪmənt] 雇用)</p> <p><b>形</b> 友好的な、親しみやすい、気さくな</p> <p><b>形</b> 社交的な、まもなく退職[引退、退陣]する</p> <p><b>動</b> 必ず[確実に、忘れずに] Vする</p> <p><b>動</b> (…に) 乗車[乗船、搭乗]する (<b>同</b> <b>get on</b> (…))</p> <p><b>名</b> 始まり、最初、初め</p> <p><b>名</b> 終わり、最後、端 <b>動</b> 終わる、…を終わらせる</p> |
|---|---|

# Lesson 117

## 👉 関係代名詞：主語の一部になる whose

「所有格」の whose は後ろの「名詞」を修飾し「whose + 名詞」が形容詞節の「主語」になります。先行詞は「人」と「人以外」の両方が可能です。

先行詞	形容詞節	意味の取り方
人 人以外	whose + 名詞 + V… S	すなわちその人(達)の<名詞>はV…だが すなわちそれ(ら)の<名詞>はV…だが

whose は所有格 (my や your と同じ格) の形容詞なので、後ろの名詞を修飾し、「whose + 名詞」が形容詞節の「主語」になります。以下は先行詞が「人」の例です。形容詞節が「文」になっている点に注意しましょう。

the man whose dog bit her

先行詞

S V

形容詞節 (=先行詞の説明文)

- ⇒ 男性・すなわちその人の犬は噛んだ・彼女を  
→ 飼い犬が彼女に噛みついた男性

次は、先行詞が「人以外」の例です。

a region whose economy is growing rapidly

先行詞

S

V

形容詞節 (=先行詞の説明文)

- ⇒ 地域・すなわちその経済は成長している・急速に  
→ 経済が急速に成長している地域

これらを用いた例文を見てみましょう。

### ① Betty sued the man whose dog bit her.

- ⇒ Betty は訴えた・その男性を・すなわちその人の犬は噛んだ・彼女を。  
→ Betty は飼い犬が自分に噛みついたその男性を訴えた。

② This is a region whose economy is growing rapidly.

⇒ これは地域だ・すなわちその経済が成長している・急速に。

→ ここは今、経済が急成長している地域です。

もう一つ例文を見てみましょう。

③ I have a cousin whose name is the same as yours.

⇒ 私は持っている・いとこを・すなわちその人の名前は同じだ・あなたのと。

→ 私にはあなたと同じ名前のいとこがいます。

\* yours is your name を置き換えた独立所有格です。

ちなみに、「whose～」は、しばしば、形容詞句「with …」(…を持った)に置き換えが可能です。例えば、②の下線部(赤)は「with a rapidly growing economy」(急速に成長している経済を持った)に、③の下線部(赤)は「with the same name as yours」(君と同じ名前を持った)に置き換えが可能です。

●● VOCABULARY

**sue** [sú:]

動 …を訴える (名 **lawsuit** [lɔ:sù:t] 訴訟)

**bite** [báit]

動 …を噛む、噛みつく (\* 例文①の bit は過去形)

**region** [ri:dʒən]

名 地域、地方、地区、領域 (\* 地理 [政治、文化] 的に他と区別する場合に用いる)

**economy**  
[ikánəmi | ikón-]

名 経済、景気 (形 **economic** [i:kónámik, ekə- | -nóm-] 経済的な)

**grow**

動 大きくなる、成長する、増加する

**rapidly** [rápídli]

副 急速に (同 **quickly, fast**)

**cousin** [kázn]

名 いとこ (= おじ [おば] の子供)

**the same as ...**

形 …と同じ (\* the を付けることに注意)

# Lesson 118

## 関係代名詞：目的語になる場合（1）

次は「目的格」の関係代名詞です。「目的格」の関係代名詞は形容詞節の「目的語」(O) になります。この形容詞節は目的語を持つ文(「SV 前置詞 O」「SVO」「SVO<sub>O</sub>」「SVO<sub>C</sub>」)の目的語(O)が関係代名詞として文頭に出たものなので、関係代名詞の後ろは「主語 + 目的語が欠落する動詞(句)」になります。

先行詞	形容詞節	意味の取り方
人	who(m) that O ← + S + V。	すなわちその人(達)を SはVだが
人以外	which that O ← + S + V。	すなわちそれ(ら)を SはVだが

「先行詞+形容詞節」の例を見てみましょう。形容詞節が目的語(O)の関係代名詞で始まり、後ろが「主語(S)+目的語(O)が欠落する動詞(句)」になっていることを確認してください。

the woman	that Pat admires
先行詞	O S V

形容詞節

⇒ 女性・すなわちその人を・Pat は尊敬している

→ Pat が尊敬している女性

\* ここでの that は whom (フォーマルな語) か who (フォーマルではないが使用頻度は低い) に置き換えることができます。

one thing	that you like about yourself
先行詞	O S V

形容詞節

⇒ 1つのこと・すなわちそれを・君は好きである・君自身について

→ 君が自分自身について気に入っている1つのこと

\* ここでの that は which (フォーマルな語) に置き換えることができます。

これらの例では、第3文型(SVO)のOが関係代名詞になっていますが、次の例では第4文型(SVO<sup>O</sup>)のOが関係代名詞として形容詞節の文頭に出ています。

the software that they sold us

先行詞

O S V O'

形容詞節

⇒ ソフトウェア・すなわちそれを・彼らが売った・私達に  
→ 彼らが我々に売ったソフトウェア

それでは、これらの「先行詞+形容詞節」を文中に置いた例文を見てみましょう。前から訳し下げて(⇒の和訳で)意味を取ってください。

① The woman that Pat admires is Ms. Williams.

⇒ 女性・すなわちその人を・Patは尊敬している・はWilliamsさんだ。  
→ Patが尊敬している女性はWilliamsさんだ。  
\* admiresのsは三単現のsです。この文の主語はwomanで述語動詞はisです。

② Pick one thing that you like about your appearance.

⇒ 選びなさい・1つのことを・すなわちそれを・君は好きである・君の外見について。  
→ 自分の外見で気に入っている部分の一つ挙げてみて。

③ We have a problem with the software that they sold us.

⇒ 私達は抱えている・問題を・ソフトウェアに・すなわちそれを・彼らが売った・私達に。  
→ 彼らが我々に売ったソフトウェアのことで問題を抱えています。

それから、目的格の関係代名詞はたいてい省略されます。つまり、①～③はそれぞれ、次の④～⑥のように言う方が一般的です。

④ The woman Pat admires is Ms. Williams.

⇒ 女性・(すなわちその人を)Patが尊敬している・はWilliamsさんだ。

⑤ Pick one thing you like about your appearance.

⇒ 選びなさい・1つのことを・(すなわちそれを)君は好きである・君の外見について。

⑥ We have a problem with the software they sold us.

⇒ 私達は抱えている・問題を・ソフトウェアに・(すなわちそれを) 彼らが売った・私達に。

④～⑥のように、「目的格の関係代名詞」が省略されている文では、省略部分を「すなわちその人(達)」を「すなわちそれ(ら)」を」と補って意味を取ってください。

●● VOCABULARY

- |  |  |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> <b>admire</b> [ædmáíər]                           | <b>動</b> …を尊敬する、…を素晴らしいと思う             |
| <input type="checkbox"/> <b>pick</b> [pík]                                 | <b>動</b> …を選ぶ (同 <b>choose</b> )       |
| <input type="checkbox"/> <b>appearance</b> [əpíərəns]                      | <b>名</b> 外観、外見、容姿、出現、登場                |
| <input type="checkbox"/> <b>have a problem with</b> …<br>[prábləm   prób-] | <b>動</b> …のことで問題を抱えている、…に関して困っていることがある |
| <input type="checkbox"/> <b>software</b> [sǔ:ftwɛər]                       | <b>名</b> (コンピューターの) ソフトウェア             |



# Lesson 119

## 👉 関係代名詞 : 目的語になる場合 (2)

前のレッスンでは、「他動詞の目的語」が関係代名詞として形容詞節の文頭に置かれる形を学習しましたが、このレッスンでは、「前置詞で終わる動詞句の目的語」が関係代名詞として形容詞節の文頭に置かれる形を学習します。「前置詞で終わる動詞句」とは、「go out with」(…と付き合う)、「ask me about」(…について私に尋ねる)、「live in」(…の中で暮らす)のような動詞句のことです。「先行詞+形容詞節」の例で見てください。

every boy that Linda goes out with  
先行詞 O S V + 副詞 + 前置詞

形容詞節

⇒ 全ての男子・すなわちその人・Linda は付き合う・…と  
→ Linda が付き合う全ての男子の子

the recipe that you asked me about  
先行詞 O S V O' 前置詞

形容詞節

⇒ レシピ・すなわちそれ・あなたは尋ねた・私に・…について  
→ あなたが私に(その内容を)尋ねたレシピ

the home that Luke Skywalker lived in  
先行詞 O S V + 前置詞

形容詞節

⇒ 家・すなわちそれ・Luke Skywalker が暮らしていた・…の中に  
→ ルーク・スカイウォーカーが暮らしていた家

それでは、これらの「先行詞+形容詞節」を文中に置いた例を見てみましょう。目的格の関係代名詞は省略するのが一般的なので、省略した形を示します。関係代名詞の省略と目的語が欠落している前置詞に注意してください。

### ① Every boy Linda goes out with is slim and good-looking.

⇒ 全ての男子・(すなわちその人) Linda が付き合う・…と・は細い・そして・外見が良い。  
→ Linda が付き合う男子の子は皆、スマートでルックスが良い。

② Cindy, here's the recipe you asked me about.

⇒ Cindy・ここに・ある・レシピが・(すなわちそれ)君が尋ねた・僕に・について。

→ Cindy、君が僕に聞いてたレシピ、ここに置いておくよ。

③ This is like the home Luke Skywalker lived in in "Star Wars."

⇒ これは・のようだ・家・ルークスカイウォーカーが暮らしていた・の中に・スターウォーズの中で。

→ これって、スターウォーズでルーク・スカイウォーカーが住んでた家みたいだね。

\* lived in の目的語である that は省略されています。この文の「lived in in "Star Wars"」を「lived in "Star Wars"」にすると文法的に間違いになります。

●● VOCABULARY

every

**形** 全ての、どの…も (\* every と each は共に「可算名詞」の「単数形」を修飾。all は「可算名詞」と「不可算名詞」の両方を修飾。all が修飾する「可算名詞」は「複数形」になる。

go out with …

**動** …とデートに行く、＜異性＞と付き合う

slim [slɪm]

**形** スマートな、スリムな (同 slender [slɛndə(r)])  
\* smart は「頭が良い」という意味

good-looking

**形** 外見が魅力的な、ルックスが良い

Here is [are] …

**慣** ここに…があります。これは…です。今からお見せ [お聞かせ] するのは…です。(\* 例文②の here's は here is の短縮形。Here is [are] … の主語は There is [are] … と同様、「…」に置かれる名詞。この名詞が複数形の場合は Here are … とするが、くだけた会話では複数形でも Here's … とすることがある)

recipe [rɪˈsɪpi]

**名** 料理 [調理] 法、レシピ

ask … about ~

**動** …に…について尋ねる (動 tell … about ~ …に…について話す)

like

**前** …のように、…のような

# Lesson 120

## 👉 関係代名詞：目的語の一部になる whose

関係代名詞 whose は後ろの名詞を修飾し、「whose + 名詞」が形容詞節の「主語」になることを Lesson 117 で学習しましたが、「whose + 名詞」はまた、形容詞節の「目的語(O)」にもなります。その場合、後ろは「主語 + 目的語の欠落する動詞(句)」になります。

先行詞	形容詞節	意味の取り方
人 人以外	<u>whose + 名詞</u> + S + V O	すなわちその <名詞> を SはVだが

\* whose の先行詞は「人」と「人以外」の両方が可能です。

「先行詞 + 形容詞節」の例を見てみましょう。「whose + 名詞」が形容詞節の「目的語(O)」になっている点に注意してください。

a poet whose name I've forgotten

先行詞

O S V

形容詞節

- ⇒ 詩人・すなわちその名前を・私は忘れてしまった  
→ 私がその名前を忘れてしまった詩人

a business consultant whose opinion Bill trusts

先行詞

O S V

形容詞節

- ⇒ 経営コンサルタント・すなわちその意見を・Bill は信頼している  
→ Bill がその意見を信頼している経営コンサルタント

words whose meanings he doesn't understand

先行詞

O S V

形容詞節

- ⇒ ことば・すなわちその意味を・彼は理解していない  
→ 彼がその意味を理解していないことば

それぞれの例文を見てみましょう。

① **In his speech, Ted quoted a poet whose name I've forgotten.**

⇒ 彼のスピーチの中で・Tedは言葉を引用した・詩人の・すなわちその名前を・私は忘れてしまった。

→ Tedはスピーチの中で、誰だったか名前を忘れましたが、ある詩人の言葉を引用しました。

\* In his speechのhisはTedを指しています。

② **Nick was a business consultant whose opinion Bill trusted.**

⇒ Nickは・だった・経営コンサルタント・すなわちその意見を・Billが信頼していた。

→ Nickは、Billがその意見に信頼を寄せている経営コンサルタントだった。

③ **Ben often uses words whose meanings he doesn't understand.**

⇒ Benはしばしば使う・ことばを・すなわちその意味を・彼は理解していない。

→ Benは意味が理解できていないことばをよく使う。

\* 先行詞wordsが複数形なので、whose (= their)の修飾を受けるmeaningsも複数形になります。

●● VOCABULARY

- |   |  |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> <b>quote</b> [kwóut]                           | <input type="checkbox"/> <人>の言葉を引用する、<言葉・一節>を引用する、…を引き合いに出す            |
| <input type="checkbox"/> <b>poet</b> [póuit]                            | <input type="checkbox"/> 詩人、歌人 (名 poem [póuam] 詩)                      |
| <input type="checkbox"/> <b>forget</b> [fərgét]                         | <input type="checkbox"/> …を忘れる (*過去形は forgot、過去分詞は forgotten か forgot) |
| <input type="checkbox"/> <b>business consultant</b> [biznis kənsáltənt] | <input type="checkbox"/> ビジネス [経営] コンサルタント                             |
| <input type="checkbox"/> <b>opinion</b> [əpínjən]                       | <input type="checkbox"/> 意見、見解   |
| <input type="checkbox"/> <b>trust</b> [trást]                           | <input type="checkbox"/> …を信頼 [信用] する <input type="checkbox"/> 信頼、信用   |
| <input type="checkbox"/> <b>meaning</b> [mí:nɪŋ]                        | <input type="checkbox"/> 意味、意図、意義                                      |

# Lesson 121

## 📖 関係代名詞 : whose の代わりに用いる句

フォーマルな英語では、「whose + 名詞」の代わりに「**名詞 of which**」(先行詞は人以外)もしくは「**名詞 of whom**」(先行詞は人)を用いることがあります。これらの名詞句は、「whose + 名詞」と同様、形容詞節の「主語」か「目的語」になります。例えば、「whose + 名詞」が形容詞節の「主語」になっている Lesson 117 ②は、次のように言うこともできます。

### ① This is a region the economy of which is growing rapidly.

先行詞                      S                                      V

⇒ これは地域だ・経済・すなわちそのの・が成長している・急速に。

→ ここは今、経済が急成長している地域です。

\* 「of which」「of whom」に修飾される「名詞」には通常 the が付きます。

下線部(赤)が形容詞節です。of which は名詞 economy を修飾しています。whose が「後ろ」の語を修飾するのにに対し、「**of which**」「**of whom**」は「**前**」の語を修飾します。「of which」「of whom」は「**部分詞**」(all, most, many, some, both, half, few, none, each など)や「**数詞**」(one, two, five など)を修飾する場合に最もよく用いられます(この場合、先行詞と形容詞節の間にカンマを置いて判読しやすくします)。次の②と③は「**部分詞 + of whom/which**」が形容詞節の「**主語**」になっている例で、④は「**目的語**」になっている例です。

### ② Some 1,500 workers, most of whom belonged to the union, went on strike.

先行詞                      S                                      V

⇒ およそ 1500 の労働者・大半・すなわちその人達の・は属していた・組合に・が入った・ストに。

→ 大半が組合に所属する約 1500 人の労働者がストを行った。

### ③ Sandy published two novels, both of which sold more than a million copies.

先行詞                      S                                      V

O

⇒ Sandy は出版した・2冊の小説を・両方・すなわちそれらの・が売り上げた・多くを・100万部より。

→ Sandy は2冊の小説を出版したが、その両方が100万部以上売れた。

④ It has many benefits, one of which I referred to above.

先行詞 O S V

⇒ それは持つ・多数の恩恵を・一つ・すなわちそれらの・に私は言及した・上記で。  
→ それには数多くの恩恵があります。上記でその一つに言及しましたが。

②③④で「of whom」「of which」の代わりに whose を用いて「whose most」「whose both」「whose one」とすることはできません。whose, my, your, his などの「所有格」は部分詞や数詞を修飾できないからです。また、部分詞や数詞には the を付けないので、「the most」「the both」「the one」としません。

●● VOCABULARY

- |  |   |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> <b>some</b> 数字                        | <b>價</b> およそ [約] <数字> (同 <b>about</b> , <b>roughly</b> )                                |
| <input type="checkbox"/> <b>most (of ...)</b> [móust]          | <b>代</b> (…の) 大半 [大多数]  |
| <input type="checkbox"/> <b>belong to</b> ... [bilɔ:ŋ   -lɔ:ŋ] | <b>動</b> …に属している、…のものである  |
| <input type="checkbox"/> <b>union</b> [jú:njən]                | <b>名</b> 結合、団結、連合、同盟、(労働) 組合  |
| <input type="checkbox"/> <b>go on strike</b> [stráik]          | <b>動</b> ストライキを行う、ストに入る   |
| <input type="checkbox"/> <b>publish</b> [pʌblɪʃ]               | <b>動</b> …を出版 [刊行] する、…を発表 [公表] する  |
| <input type="checkbox"/> <b>sell</b>                           | <b>動</b> (人・会社が) …を売る、(本・CDなどが) …個 [冊、枚] を売り上げる、(商品が) 売れる                               |
| <input type="checkbox"/> <b>more than</b>                      | <b>前</b> …より多く、…以上 (同 <b>over</b> * more than …も over …も「…」の数を含まないが便宜上「…以上」と和訳されることが多い) |
| <input type="checkbox"/> <b>million</b> [miljən]               | <b>名</b> 百万 <b>形</b> 百万の ( <b>名</b> <b>形</b> <b>billion</b> [biljən] 十億 (の))            |
| <input type="checkbox"/> <b>copy</b> [kápi   kópi]             | <b>名</b> (同じ本・雑誌・CDなどの) 部、冊、枚<br><b>動</b> …を写す、…をコピーする、…を模倣する                           |
| <input type="checkbox"/> <b>benefit</b> [bénəfit]              | <b>名</b> 恩恵、便益、利益、利得、給付金、手当   |
| <input type="checkbox"/> <b>refer to</b> ... [rifɔ:r]          | <b>動</b> …に言及する、…を参照する (* refer の過去形は r を重ねて ed を付ける (R12))                             |
| <input type="checkbox"/> <b>above</b> [əbáv]                   | <b>副</b> 上方に、上記で <b>前</b> …の上に、…を越えて  |

# Lesson 122

## 関係代名詞：副詞句の一部になる場合

関係代名詞の which は形容詞節の「主語」や「目的語」になるだけでなく、「前置詞 + which」という「副詞句」の一部にもなります。この「副詞句」の後ろには「主語 + 動詞」で始まる「完全な文」 (= 5文型のどれかが完全に成立している文) が続きます。

先行詞	形容詞節	意味の取り方
人以外	<u>前置詞 + which</u> + S + V ... 副詞句	すなわちそれ <前置詞> S は V ... だが

前置詞の後ろの which は目的格ですが、同じく目的格の that は、ここでは使えません。意味の取り方は、「前置詞 + which」を「副詞句」として訳します。例えば、「in which」なら「すなわちそれの中で」になり、「for which」なら「すなわちそれのために」「すなわちそれに対して」になります。次の例で確認しましょう。

the house in which Evans was founded

先行詞

副詞句

完全な文

形容詞節

- ⇒ 家・すなわちそれの中で・Evans 社が設立された  
→ Evans 社が設立された家

a disease for which there is no cure

先行詞

副詞句

完全な文

形容詞節

- ⇒ 病気・すなわちそれに対して・存在する・無の治療法が  
→ 治療法がない病気

また、先行詞が「人」の場合は目的格の **whom** を用います（目的格の that は前置詞の後ろでは使えません。また、目的格の who は用いない方が無難です）。次の表で確認しましょう。

先行詞	形容詞節	意味の取り方
人	<u>前置詞 + whom</u> + S + V… 副詞句	すなわちその人<前置詞> SはV…だが

次の例で確認しましょう。「前置詞 + whom」を副詞句として独立して訳するのがポイントです。

**Italians** about whom little is known

先行詞

副詞句

完全な文

形容詞節

⇒ イタリア人達・すなわちその人達について・ほとんど無が知られている

→ その人達のことについてほとんど何も知られていないイタリア人達

**the girl** with whom Mike fell in love

先行詞

副詞句

完全な文

形容詞節

⇒ 少女・すなわちその人に対して・Mike はなった・恋した状態に

→ Mike が恋をした女の子

このような、前置詞で始まる形容詞節はフォーマルな英語です。「前置詞 + which」「前置詞 + whom」の主な例を付録 R22 で確認しておいてください。それでは、これら4つの「先行詞 + 形容詞節」を例文で確認しましょう。

① The house in which Evans was founded is now a museum.

⇒ 家・すなわちその中で・Evans 社は設立された・今は記念館だ。

→ Evan 社が設立された家は、今は記念館になっている。

\* この文の主語は house、述語動詞は is です。

② At present, it is a disease for which there is no cure.

⇒ 現在では・それは病気だ・すなわちそれに対して・存在する・無の治療法が。

→ 現時点では、それは治療法がない病気である。



③ **His ancestors were Italians about whom little is known.**

⇒ 彼の先祖達は・だった・イタリア人達・すなわちその人達について・ほぼ無が知られている。

→ 彼の先祖は、素性がほとんどわかっていないイタリア人だった。

④ **Linda is the girl with whom Mike fell in love.**

⇒ Linda は女の子だ・すなわちその人に対し・Mike がなった・恋している(状態に)。

→ Linda は Mike が恋をした女の子だ。

●● VOCABULARY

- |   |  |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> <b>found</b> [faʊnd]         | <b>動</b> …を設立〔創立、創設〕する（*過去形 / 過去分詞は founded。find の過去形 / 過去分詞である found との混同に注意。R18 を参照） |
| <input type="checkbox"/> <b>museum</b> [mju:zi:əm]    | <b>名</b> 博物館、美術館、記念館、資料館   |
| <input type="checkbox"/> <b>at present</b> [prézent]  | <b>副</b> 今〔現在〕のところ、現時点では   |
| <input type="checkbox"/> <b>disease</b> [dizi:z]      | <b>名</b> 病気、疾病、疾患  |
| <input type="checkbox"/> <b>cure</b> [kjúə]           | <b>名</b> 治療、治療法 <b>動</b> …を治す、…を治療する   |
| <input type="checkbox"/> <b>ancestor</b> [áensestə]   | <b>名</b> 先祖  |
| <input type="checkbox"/> <b>little</b>                | <b>代</b> ほとんどないこと [もの] <b>形</b> ほとんどない（*不可算名詞に用いる）                                     |
| <input type="checkbox"/> <b>fall in love (with …)</b> | <b>動</b> (…に) 恋をする（* fall の用法は R15 を参照。with は「…に対して」という意味で恋愛の対象を表す。「…と共に(恋に落ちる)」ではない）  |

# Lesson 123

## 👉 関係副詞：場所と時を表すもの

前のレッスンでは、「前置詞＋関係代名詞」という「副詞句」で始まる形容詞節について学習しましたが、形容詞節が「副詞」で始まる場合もあり、この副詞を「関係副詞」と呼びます。関係副詞には「場所」「時」「理由」「方法・様態」の4種類があり、「場所」は **where**、「時」は **when**、「理由」は **why**、「方法・様態」は **that** で表します。関係副詞の後ろには「前置詞＋関係代名詞」の場合と同様、「完全な文」(＝5文型のどれかが完全に成立している文)が続きます。

先行詞	形容詞節	意味の取り方
場所の名詞	<b>where</b> + S + V ...	すなわちそこで [そこへ] SはV... だが
時の名詞	<b>when</b> <b>that</b> + S + V ...	すなわちその時に SはV... だが
reason	<b>why</b> <b>that</b> + S + V ...	すなわちその理由で SはV... だが
way	<b>that</b> + S + V ...	すなわちその方法で [そのように] SはV... だが

(注)「理由」の先行詞は reason だけ、また「方法・様態」の先行詞は way だけです。

このレッスンでは、where と when の形容詞節について説明します。まずは where です。次の例を見てください。

the town **in which golf was invented**

先行詞

副詞句

完全な文

形容詞節

⇒ 町・すなわちそれの中で・ゴルフが生み出された

→ ゴルフが生まれた町

これは前のレッスンで学習した「前置詞＋which」で始まる形容詞節です。「in which」は「すなわちそれの中で」という副詞句ですが、これは、「すなわちそこで」という意味の関係副詞 **where** に置き換えることができます。

**the town** **where golf was invented**

先行詞

副詞

完全な文

形容詞節

⇒ 町・すなわちそこで・ゴルフが生み出された

→ ゴルフが生まれた町

例文で確認しましょう。

① **St. Andrews is the town in which golf was invented.**

**St. Andrews is the town where golf was invented.**

⇒ セントアンドリュースは町だ・すなわちその中で・ゴルフが生み出された。

⇒ セントアンドリュースは町だ・すなわちそこで・ゴルフが生み出された。

→ セント・アンドリュースはゴルフが生まれた町だ。

次も where を用いた例です。where は in which に置き換えが可能です。

② **Stay away from areas where crime is likely to occur.**

⇒ とどまってください・離れた所に・地域から・すなわちそこでは・犯罪の可能性が高い・発生する。

→ 犯罪の起きる可能性が高い地域には近づかないようにしてください。

つまり、関係副詞 where は「場所の前置詞 (in, at, on など) + which」という副詞句と同じ働きをすることです。そして、これは関係副詞の when にも当てはまります。when は「時の前置詞 (in, at, on など) + which」という副詞句と同じ働きをします。次の例を見てください。

**the month** **in which they don't eat or drink**

先行詞

副詞句

(第1文型の) 完全な文

形容詞節

⇒ 月・すなわちそれの中では・彼らは食べない・また・飲まない

→ 彼らが食べることも飲むこともしない月

\* eat と drink は共に自動詞です。

この副詞句 in which (「すなわちその中で」) は「すなわちその時に」という関係副詞 when に置き換えることができます。

**the month** **when they don't eat or drink**

先行詞

副詞

(第1文型の) 完全な文

形容詞節

⇒ 月・すなわちその時に・彼らは食べない・また・飲まない

→ 彼らが食べることも飲むこともしない月

例文で確認しましょう。

- ③ **It is the month in which they don't eat or drink from sunrise to sunset.**

**It is the month when they don't eat or drink from sunrise to sunset.**

⇒ それは月だ・すなわちその中で / すなわちその時に・彼らは食べない・もしくは・飲まない・日の出から・日没まで。

→ それは彼らが日の出から日没まで飲食を行わない月である。

when の代わりに **that** を使うこともできます (that の方がくだけた言い方です)。また、日常会話では「時の関係副詞を省略する」のが一般的です。例文で確認しましょう。

- ④ **Long time no see! When was the last time that we met?**

**Long time no see! When was the last time we met?**

⇒ 長い間会わなかったですね。いつでしたか? ・最後の時は・すなわちその時に / (すなわちその時に) ・我々が会った。

→ 久しぶりだねー! 前に会ったのはいつだったっけ?

\* met (meet の過去形) は「お互いに会った」という意味の自動詞です。

●● VOCABULARY

- |  |  |
|--|--|
| <p><input type="checkbox"/> <b>invent</b> [ɪnvent]</p> <p><input type="checkbox"/> <b>stay away from ...</b></p> <p><input type="checkbox"/> <b>crime</b> [kraim]</p> <p><input type="checkbox"/> <b>be likely to Vb</b> [laikli]</p> <p><input type="checkbox"/> <b>occur</b> [ə'kɔ:t]</p> <p><input type="checkbox"/> <b>not ... or ~</b></p> <p><input type="checkbox"/> <b>from ... to ~</b></p> <p><input type="checkbox"/> <b>sunrise</b> [sʌnráiz]</p> <p><input type="checkbox"/> <b>sunset</b> [sʌnsèt]</p> <p><input type="checkbox"/> <b>Long time no see!</b></p> <p><input type="checkbox"/> <b>last</b> [lást]   lá:st</p> | <p><b>動</b> ...を生み出す、...を発明する (<b>名</b> invention [ɪnvenʃn] 発明)</p> <p><b>動</b> ...から離れている、...に近づかない</p> <p><b>名</b> 犯罪 (* 犯罪全般を言う場合は不可算名詞、個別の犯罪は可算名詞。例文②では前者)</p> <p><b>動</b> Vする可能性が高い、Vしやすい</p> <p><b>動</b> 発生する、起こる、生じる、ふと頭に浮かぶ</p> <p><b>慣</b> ...も～も(どちらも)ない (*この意味ではandではなくorを用いる)</p> <p><b>慣</b> ...から～まで(ずっと)</p> <p><b>名</b> 日の出</p> <p><b>名</b> 日没</p> <p><b>慣</b> 久しぶりですね。ご無沙汰です。</p> <p><b>形</b> 最後の、一番最近の <b>副</b> 最後に、一番最近に</p> <p><b>動</b> 続く、持つ、持ちこたえる</p> |
|--|--|

# Lesson 124

## 関係副詞：理由と様態を表すもの

次は、「理由」と「方法・様態」の関係副詞です。「場所」と「時」の関係副詞は先行詞がさまざまですが、「理由」の関係副詞 **why** の先行詞は **reason** だけ、「方法・様態」の関係副詞 **that** の先行詞は **way** だけです。

まず、「理由」の **why** についてですが、**why** は「すなわちその理由で」という意味で、副詞句 *for which* に相当しますが、*reason for which* は非常にぎこちなく聞こえるため、一般的には用いられません。次の例で先行詞 **reason** と関係副詞 **why** の使い方を確認しましょう。

the reason	why we promote recycling
先行詞	副詞 (第3文型の) 完全な文
	形容詞節

- ⇒ 理由・すなわちその理由で・我々は推進している・リサイクルを  
 → 我々がリサイクルを推進している理由

これまでと同様、関係副詞の後ろに「完全な文」が続くことに注意してください。**why** の代わりに **that** が使われることもあります (**that** の方がぐだけた言い方)。例文で確認しましょう。

- ① The reason why we promote recycling is to help improve the environment.

The reason that we promote recycling is to help improve the environment.

- ⇒ 理由・すなわちその理由で・我々は推進している・リサイクルを・は助けるためにである・良くするのを・環境を。  
 → 我々がリサイクルを推進している理由は、環境の改善を助けるためです。  
 \* 主語は **reason**、述語動詞は **is** です。**to help improve the environment** は不定詞の副詞用法(目的)です (VOCABULARY 欄を参照)。

次は、「方法・様態」(「様態」とは「有様」「格好」「形」のことです)の **that** です。**that** は「すなわちその方法で」「すなわちその様態[格好、形]で」という意味です。「方法・様態」を目的語にとる前置詞は **in** なので、**that** は副詞句 *in which* に相当します。次の例で確認しましょう。

## many ways in which the Internet saves us time

先行詞

副詞句

(第4文型の) 完全な文

形容詞節

## many ways that the Internet saves us time

先行詞

副詞

(第4文型の) 完全な文

形容詞節

⇒ 多くの方法・すなわちその方法で・インターネットは省く・私達から・時間を  
 → インターネットが我々の時間を省く多くの方法

但し、「方法・様態」の関係副詞は省略するのが一般的です。次の例文の中では、3番目が最も一般的な言い方です。

### ② There are many ways in which the Internet saves us time.

There are many ways that the Internet saves us time.

There are many ways the Internet saves us time.

⇒ ある・たくさんの方法が・すなわちその方法で / すなわちその方法で / (すなわちその方法で) ・インターネットは省いてくれる・我々に・時間を。

→ インターネットは色々な形で我々の時間を節約してくれる。

## ●● VOCABULARY

... is to Vb.

**慣** ...はVすることである。...はVするため(に)である。(※前者はto不定詞の名詞用法、後者はto不定詞の副詞用法(目的の意味)。例文①は後者)

promote [prə'məʊt]

**動** ...を促進[推進、奨励]する、...を昇進させる

recycle [ri:'saɪkl]

**動** (...を)リサイクルする(※例文①では動名詞)

help Vb

**動** Vすることを助ける(※「help to Vb」のtoが省略された形。省略された形で用いることが多い)

improve [im'pru:v]

**動** ...を良くする、...を改善[改良]する、良くなる

environment

[ɪnvaɪərənmənt]

**名** 環境、自然環境(※一般に「自然環境」の意味では例文①のようにtheをつける)

save [seɪv]

**動** ...を救う、...を取っておく、...を蓄える、...を節約する、...を省く、...に～を省く(※例文②は第4文型「...に～を省く」の用法)

# Lesson 125

## 👉 関係詞の省略

前のレッスンで、「方法」「様態」の関係副詞は省略するのが一般的だと説明しましたが、「時」の関係副詞 when もたいてい省略され (Lesson 123 ④)、「理由」の why もしばしば省略されます。関係副詞と関係代名詞の大半は that で言い換えることができますが、**that で言い換えが可能な関係詞は**(省略すると文の構造が崩れる主格の関係代名詞を除き) **全てが省略可能**です。以下の表は「that での言い換え」と「関係詞の省略の可否」をまとめたものです。

	that	省略
「主格」の関係代名詞 (who, which)	○	×
「目的格」の関係代名詞 (who(m), which)	○	○
「所有格」の関係代名詞 (whose)	×	×
「時」の関係副詞 (when)	○	○
「場所」の関係副詞 (where)	△	△
「理由」の関係副詞 (why)	○	○
「方法・様態」の関係副詞 (that)	—	○

\* 「場所」の関係副詞 (where) は、place, anywhere, somewhere, nowhere のような「場所を明確に示す先行詞」の場合には、that での置き換えと省略が可能です。

日常会話では通常、省略が可能な関係詞は省略します。また、that 以外の関係詞はフォーマルな文体で用い、「前置詞 + 関係代名詞」はさらにフォーマルです。

関係副詞が省略された例文をいくつか見てみましょう。

### ① "Your total is \$19.65." "Oh, that's the year I was born."

⇒ 「あなたの合計は 19.65 ドルです」「おお・それは年だ・(すなわちその時に) 私が生まれた」

→ 「合計で 19 (ドル) 65 (セント) になります」「おっ、それは僕が生まれた年だ」

\* year の後に when が省略されています。the year I was born in (関係代名詞の目的格が省略) とすることもできますが、ややぎこちない言い方になります。

\* \$19.65 の正式な読み方は nineteen dollars and sixty-five cents ですが、日常的には nineteen dollars and sixty-five, nineteen and sixty-five、さらには nineteen sixty-five (この例文での発音方法) のように簡略化して発音します。



② The reason I called is that I've got some good news for you.

- ⇒ 理由・(すなわちその理由で) 私は電話した・は以下のことだ・私は持っている・ある良い知らせを・君にとっての。  
→ 電話をしたのはね、君に良い知らせがあるからなんだ。

③ I can't stand his attitude and the way he acts.

- ⇒ 私は我慢できない・彼の物の考え方に・そして・方法に・(すなわちその方法で) 彼が行動する。  
→ 彼の物の考え方と行動の仕方には我慢がならないわ。

次の2つの文では、I の前に場所の関係副詞が省略されています。

④ Is there any particular place I should go first?

Is there anywhere in particular I should go first?

- ⇒ ありますか? ・何か特定の場所が・(すなわちそこへ) 私が行くべき・最初に。  
⇒ ありますか? ・どこかが・特に・(すなわちそこへ) 私が行くべき・最初に。  
→ 特に最初に行っておくべき場所って、ありますか?  
\* 一般に場所の関係副詞は省略できませんが、先行詞が place と anywhere などで省略されています。

●● VOCABULARY

- |  |   |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> <u>Your total is</u> ... [təʊtl]        | 【價】 合計金額は…になります。  |
| <input type="checkbox"/> <u>The reason ~ is that</u> ... [ri:zn] | 【價】 ~である理由は…だということだ。(※主語は reason、述語動詞は is、that 節は is の補語) |
| <input type="checkbox"/> <u>'ve got</u> [gət   gɒt]              | 【價】 ((口語)) …を持っている (【同】 have)                             |
| <input type="checkbox"/> <u>stand</u> [stænd]                    | 【動】 …を我慢する、…に耐える (【同】 put up with)                        |
| <input type="checkbox"/> <u>attitude</u> [ætɪtjʊ:d   -tjʊ:d]     | 【名】 (物事に対する) 考え方 [捉え方、姿勢]                                 |
| <input type="checkbox"/> <u>act</u> [ækt]                        | 【動】 行動する、振る舞う 【名】 行為、行動                                   |
| <input type="checkbox"/> <u>particular</u> [pə'tɪkjələ]          | 【形】 特定の、個別の、固有の、特別な                                       |
| <input type="checkbox"/> <u>anywhere</u> [əni'hweə]              | 【代】 いかなる場所 【接】 ~するいかなる場所も                                 |
| <input type="checkbox"/> <u>in particular</u> [pə'tɪkjələ]       | 【副】 特(別)に (※例文④では anywhere を修飾)                           |

# Lesson 126

## 👉 関係詞の制限用法と非制限用法

Lesson 121 ②～④ で学習した「部分詞 / 数詞 of 関係代名詞」の表現は、判読しやすくするために、部分詞 / 数詞の前にカンマ (,) を置くのが一般的ですが、それ以外にも形容詞節の前にカンマを置く場合があります。次の 2 番目の表現がその例ですが、1 番目の表現との先行詞の違いに注意してください。

### a client whom I work with

⇒ 顧客・すなわちその人・私は仕事をしている・と共に

→ 私が一緒に仕事をしている顧客

\* whom は省略が可能です。また、下線部 (赤) を with whom I work とすることもできます (かなりフォーマルな言い方になります)。

### Patricia Sanchez, whom I work with

⇒ Patricia Sanchez・すなわちその人・私は・仕事をしている・と共に

→ 私が一緒に仕事をしている Patricia Sanchez

\* 下線部 (赤) を with whom I work とすることもできます。

1 番目の「**カンマのない形容詞節**」は**先行詞の範囲を絞る働き**をしています。つまり、client という「複数存在する漠然とした名詞」の範囲を絞って、その存在をより明確にしています (これを「制限用法」と呼びます)。これに対し、2 番目の「**カンマのある形容詞節**」は先行詞の範囲を絞っているではありません。Patricia Sanchez は「1人しか存在しない名詞」なので、範囲を絞ることはできません。この形容詞節は先行詞に**補足 [関連] 情報を加えている**だけです (これを「非制限用法」と呼びます)。逆に言えば、Patricia Sanchez, my mother, Japan, the sun のような「**1人 [1つ] しか存在しない先行詞**」には**必然的にカンマがつく**ことになります。別の例を見てみましょう。次の 1 番目の表現の star (星) は複数存在する漠然とした名詞なので制限用法で範囲を絞っていますが、2 番目の the earth (地球) は 1 つしか存在しないので非制限用法で補足情報を与えています。

## the star which we are most familiar with

⇒ 星・すなわちそれ・私達は最も馴染みがある・に対して

→ 私達が最も馴染みのある星

\* which は省略が可能です。

## the earth, which moves around the sun

⇒ 地球・すなわちそれは移動している・太陽の周囲を

→ 太陽の周囲を回っている地球

例文を見てみましょう。カンマの有無に注意してください。

### ① Mr. Lee is a client whom I work with regularly.

⇒ Leeさんは顧客だ・すなわちその人・私は仕事をしている・と共に・定期的に。

→ Leeさんは、私が定期的に仕事をご一緒させて頂いているお客さんです。

\* client に a が付いているのは、一緒に仕事をしている client の中の一人だからです。

### ② This is Patricia Sanchez, whom I work with.

⇒ こちらは Patricia Sanchez です・すなわちその人・私は仕事をしている・と共に。

→ こちらは、私が一緒に仕事をしている Patricia Sanchez です。

### ③ The star which we are most familiar with is the sun.

⇒ 恒星・すなわちそれ・私達は最も馴染みがある・に関して・は太陽だ。

→ 我々にとって一番馴染みのある(恒)星は太陽だ。

\* star に the が付いているのは、そのような star が一つに限定されるからです。

### ④ The earth, which moves around the sun, is a planet.

⇒ 地球・すなわちそれは動いている・太陽の周囲を・は惑星だ。

→ 太陽の周囲を回っている地球は惑星である。

\* 非制限用法の形容詞節を文中に置く場合は、節の終わりにもカンマを置きます。

この非制限用法は、「関係代名詞」「前置詞＋関係代名詞」「関係副詞」のいずれにも用いますが、制限用法とは異なる点が2つあるので注意してください。

(1) 非制限用法では、that を用いることはできない。

× This is Patricia Sanchez, that I work with.

(2) 非制限用法では、関係詞を省略できない。

× This is Patricia Sanchez, I work with.

whom が省略されている

## VOCABULARY

- |  |  |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> <b>client</b> [kláɪənt]                 | <b>名</b> (仕事上の) 客、顧客、取引先   |
| <input type="checkbox"/> <b>regularly</b> [ˈrɛɡjʊlərlɪ]          | <b>副</b> 定期的に ( <b>形</b> <b>regular</b> 規則的 [定期的] な)   |
| <input type="checkbox"/> <b>star</b>                             | <b>名</b> (光を発する) 星、恒星  |
| <input type="checkbox"/> <b>most</b> [məʊst]                     | <b>副</b> ((形容詞や副詞の前で)) 最も、 <b>形</b> ((名詞の前で)) 大半の、最も多くの <b>代</b> 大半                            |
| <input type="checkbox"/> <b>familiar with</b> ...<br>[fəˈmɪljər] | <b>形</b> <物事>を知っている、<物事>に馴染みがある<br>( <b>形</b> <b>familiar to</b> ... <人>に知られている、<人>にとって馴染みがある) |
| <input type="checkbox"/> <b>the sun</b>                          | <b>名</b> 太陽 (* the Sun とも綴る)   |
| <input type="checkbox"/> <b>the earth</b> [ði ɜːrθ]              | <b>名</b> 地球 (* the Earth もしくは Earth とも綴る)  |
| <input type="checkbox"/> <b>planet</b> [plænɪt]                  | <b>名</b> 惑星 (= star (恒星) の周りを回転する天体)   |

## 👉 非制限用法の which

関係代名詞や関係副詞の先行詞は「名詞」ですが、「非制限用法 (=カンマを置く用法) の which」は名詞以外、例えば「文」を先行詞にできます。この which は「そして [つまり] そのこと」という意味になります。次の例文を見てください。

### ① Andy is extremely jealous, which drives me crazy.

先行詞

- ⇒ Andy は極めて嫉妬深い・そしてそのことはさせる・私を・頭がおかしな (状態に)。  
 → Andy がすごくやきもち焼きで、私、頭がおかしくなりそうなのよ。

which の先行詞は下線部 (黒) で、直前の「文」を指す代名詞 that と同じ意味で使われています (つまり、Andy is extremely jealous and that is driving me crazy. としても同じ)。これは「文末に置かれた非制限用法の which」だけが持つ働きです。次の例文の which も先行詞は下線部 (黒) の「文」です。制限用法の which は正式な文書でよく用いられますが、「非制限用法の which」は日常会話でもよく用いられます。もう一つ例文を見てみましょう。

### ② He is slightly clumsy, which is why he often gets injured.

先行詞

- ⇒ 彼は少し不器用だ・そしてそれが理由だ・彼がしばしばなる・けがをした (状態に)。  
 → 彼は少し不器用だ。だから、よくけがをする。  
 \* , which is why ~ は and that is why ~ に言い換えが可能です (that is why ~ の表現については Lesson 114 の表を参照)。

また、この which は次の例文のように、「文頭」に置いて「直前の文」を先行詞にすることもできます。

### ③ "Betty is having a baby." Which means I'm gonna be an uncle."

先行詞

- ⇒ 「Betty は授かることになっている・赤ちゃんを」「つまりそのことは意味する・僕が (未来に) なることを・おじさんに」  
 → 「Betty に赤ちゃんができるのよ」「じゃあ、僕はおじさんになるってことだね」  
 \* means の後ろには (第3文型の目的語に当たる that 節の) that が省略されています。

●● VOCABULARY

- |  |  |
|--|--|
| <p><input type="checkbox"/> <b>extremely</b> [ɪkstriːmli]</p>        | <p>副 極めて、非常に (形 <b>extreme</b> 極度の、極端な)</p>                          |
| <p><input type="checkbox"/> <b>jealous</b> [dʒələs]</p>              | <p>形 ねたんだ、嫉妬した、嫉妬深い (名 <b>jealousy</b> [dʒələsi] 嫉妬)</p>             |
| <p><input type="checkbox"/> <b>drive</b> … <b>crazy</b> [kréizi]</p> | <p>動 …の頭をおかしくさせる (同 <b>drive</b> … <b>mad</b> *第5文型の表現)</p>          |
| <p><input type="checkbox"/> <b>slightly</b> [sláitli]</p>            | <p>副 少し、わずかに (形 <b>slight</b> わずかな)</p>                              |
| <p><input type="checkbox"/> <b>clumsy</b> [klámzi]</p>               | <p>形 不器用な、ぎこちない、下手な</p>  |
| <p><input type="checkbox"/> <b>injured</b> [ɪndʒərd]</p>             | <p>形 けがをしている (動 <b>injure</b> …にけがをさせる)</p>                          |
| <p><input type="checkbox"/> <b>have a baby</b></p>                   | <p>動 赤ちゃんができる、赤ちゃんを授かる (*このhaveは進行形が可能。例文③の現在進行形は近い未来の出来事を表している)</p> |
| <p><input type="checkbox"/> <b>be gonna</b> [gəːnə, gənə]</p>        | <p>慣 (be going to のくだけた言い方で未来や意志を表す) (* Lesson 141 [Note])</p>       |

Ch.  
11

② He is slightly clumsy, which is why he often gets injured.

彼は少し不器用で、それがよくてよく怪我をする。

He is slightly clumsy. → which is why he often gets injured.

彼は少し不器用で、それがよくてよく怪我をする。

③ "Betty is having a baby." "Which means I'm gonna be an uncle."

"ベティは赤ちゃんを産むのよ。" "それはつまり、おじいちゃんになるのよ。"

"Betty is having a baby." → "Which means I'm gonna be an uncle."

"ベティは赤ちゃんを産むのよ。" → "それはつまり、おじいちゃんになるのよ。"

# Chapter

# 12

単語・熟語数：126

## 文法のテーマ：副詞節

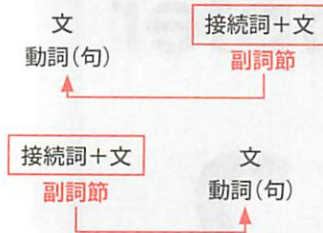
文全体が「副詞」になり、動詞や文を修飾するものを「副詞節」と呼びます。副詞節は「接続詞+文」から成ります。

副詞節を作る「接続詞」には、「時」「場所」「理由」「方法・様態」「条件」「譲歩」を表すものがあり、接続詞の数だけ副詞節があります。

# Lesson 128

## 👉 副詞節の構造

副詞節は「接続詞＋文」から成り、「文」や「動詞(句)」を修飾します。



接続詞 before が導く副詞節で、上記のパターンを確認しましょう。

### ① I consulted my attorney before I signed the contract.



- ⇒ 私は相談した・私の弁護士に・以下の前に・私がサインをする・契約書に。  
 → 契約書にサインをする前に、私は自分の弁護士に相談をした。  
 \* consulted が過去形なので、副詞節も過去形 (signed) になります。

### ② Fred suggested seeing a lawyer before I signed it.



- ⇒ Fred は勧めた・相談することを・弁護士に・以下の前に・私がサインをする・それに。  
 → Fred は、私がそれにサインをする前に弁護士に相談することを勧めた。  
 \* seeing は動名詞で suggested の目的語に当たります。

### ③ Before she signed up, she did a little research online.



- ⇒ 以下の前に・彼女が登録を行う・彼女は行った・少しの調査を・ネットで。  
 → 登録を行う前に、彼女は少しネットでリサーチをしてみた。  
 \* 副詞節が「前」に置かれる場合は、副詞節の最後にカンマを置いて判読しやすくするのが一般的です。発音する時はカンマの部分で短い間を置きます。



④ Before you sign it, make sure you read it thoroughly.

副詞節

動詞句

⇒ 以下の前に・あなたがサインをする・それに・確実にしてください・あなたが読むことを・それを・徹底的に。

→ それにサインをする前に、必ず内容を隅から隅まで読んでください。

次のレッスンでは、before 以外の「時を表す接続詞」について学習します。

●● VOCABULARY

- |  |  |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> <b>consult</b> [kənsʌlt]            | <b>動</b> <医者・弁護士など>に相談する [診てもらう]、<br><辞書・文献など>を調べる       |
| <input type="checkbox"/> <b>attorney</b> [ətɔːrni]           | <b>名</b> ((米) 弁護士 (同 <b>lawyer</b> [lɔːjər, lɔɪər]))     |
| <input type="checkbox"/> <b>sign</b> [saɪn]                  | <b>動</b> (…に) 署名 [サイン] をする                               |
| <input type="checkbox"/> <b>contract</b> [kəntrækt   kɒn-]   | <b>名</b> 契約、規約、協定  |
| <input type="checkbox"/> <b>suggest</b> [sədʒɛst   sɒdʒɛst]  | <b>動</b> …を示唆する、…を提案する、…を勧める                             |
| <input type="checkbox"/> <b>see</b>                          | <b>動</b> <医者・弁護士など>に相談する [診てもらう]                         |
| <input type="checkbox"/> <b>sign up</b> [saɪn]               | <b>動</b> (入会・参加・購入などの) 登録をする、申し込む                        |
| <input type="checkbox"/> <b>a little</b>                     | <b>形</b> 少しの、ちょっとした、小さな <b>副</b> 少し                      |
| <input type="checkbox"/> <b>research</b> [rɪsɔːrt   rɪsɔːrt] | <b>名</b> 研究、調査、リサーチ <b>動</b> (…を) 研究 [調査] する             |
| <input type="checkbox"/> <b>online</b> [ɒnlaɪn   ɔn-]        | <b>副</b> ネットワーク上で、インターネットで<br><b>形</b> ネットワーク上の、インターネットの |
| <input type="checkbox"/> <b>make sure (that) ~</b>           | <b>動</b> ~であることを確実にする [確認する]                             |
| <input type="checkbox"/> <b>thoroughly</b> [θɜːrəʊli]        | <b>副</b> 徹底的に、完全に ( <b>形</b> <b>thorough</b> 徹底的な)       |

# Lesson 129



## 時の接続詞 (1)

「時」を表す before、after、since、until [till] は「前置詞」と「接続詞」の両方で使います。「前置詞」の場合は後ろに「名詞」「代名詞」「動名詞」のどれかをとって「副詞句」になり、「接続詞」の場合は「文」をとって「副詞節」になります。

before	(…の前に)	+	}	名詞	… 副詞句
after	(…の後に)			代名詞	
since	(…以来)			動名詞	
until / till	(…まで)			文	

(注) until は口語でも文語でも使いますが、till はふつう口語で使います。

このレッスンでは「文」をとって「副詞節」になる場合を学習します。before は前のレッスンで確認したので、残り3つの接続詞を例文で確認しましょう。

① I'm not sure what I want to do after I finish school.

⇨ 僕は定かではない・何を僕がしたいか・以下の後に・僕が終えた・学校を。

→ 学校を卒業したら何がしたいのか、自分でもよくわからないんだ。

\* 「sure of 間接疑問文」の of は省略されます。これは sure of if [whether] 節」の of が省略されるのと同じです (Lesson 110 ④)。

② Fred has lost 15 pounds since he began working out.

⇨ Fred は今までに減らした・15ポンドを・以下以来・彼が始めた・運動することを。

→ Fred は運動を始めてから体重が15ポンド減った。

③ I didn't notice the difference until you pointed it out.

⇒ 私は気づかなかった・その違いに・以下の時までずっと・君が指摘した・それを。  
→ 君に指摘されるまで、その違いに気づかなかったよ。

●● VOCABULARY

- |   |   |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> <b>finish</b> 学校             | <b>動</b> <学校>を卒業する (同 <b>leave [get out of]</b> 学校) |
| <input type="checkbox"/> <b>lose</b> [lú:z]           | <b>動</b> …を失う、<体重>を減らす (*例文②では過去分詞)                 |
| <input type="checkbox"/> <b>pound</b> [páund]         | <b>名</b> ((重量単位の)) ポンド、((貨幣単位の)) ポンド                |
| <input type="checkbox"/> <b>begin Ving</b>            | <b>動</b> Vし始める (* start Ving の方が口語的)                |
| <input type="checkbox"/> <b>work out</b>              | <b>動</b> (ジムなどで) 運動をする、トレーニングをする                    |
| <input type="checkbox"/> <b>notice</b> [nóutis]       | <b>動</b> … (の存在) に気づく <b>名</b> 掲示、通知、予告             |
| <input type="checkbox"/> <b>difference</b> [dífərəns] | <b>名</b> 違い、相違点、差 ( <b>形</b> <b>different</b> 異なる)  |
| <input type="checkbox"/> <b>point … out</b>           | <b>動</b> …を指摘する                                     |

# Lesson 130

## 👉 時の接続詞（2）

「時」を表す「接続詞」には、前のレッスンで取り上げた語の他に、次のようなものがあります。

when		+ 文	(～する時に)
while			(～している最中[間]に)
as			(～するのと同時に、～するにつれて)
as soon as			(～するや否や)
once			(一旦～した時点で)

副詞節に注意しながら各例文を読んでください。

① The lecture was ending when Joe got there.

- ⇒ 講義は終わりかけていた・以下の時には・Joe が着いた・そこへ。  
→ 講義は、Joe が到着した時には、終わりかけていた。  
\* これは Lesson 25 ②の例文です。

② While you're there, can you get me some batteries?

- ⇒ 以下の間に・君がいる・そこに・君は手に入れられる?・私に・いくつかの電池を。  
→ そこにいる間に、電池を買っておいてくれる?

③ However, as time passed, his condition grew more serious.

- ⇒ しかし・以下と同時に・時間が経過した・彼の健康状態はなった・より深刻な(状態に)。  
→ しかし、時間の経過と共に、彼の病状は深刻化した。

④ I'll let you know as soon as I find anything out.

⇒ 私はさせる・あなたが・知るように・以下の時には直ちに・私が見出す・何かを。  
→ 何かわかり次第、お知らせします。

⑤ Once you've selected an answer, there's no going back.

⇒ ひとたび以下の時には・あなたが選択し終えた・答えを・存在する・無の戻ることが。  
→ 一度答えを選択したら、後戻りはできません。

これら5つの接続詞 (when、while、as、as soon as、once) のうち、when と while は「**while Ving**」「**when Ving**」という副詞句でもよく用います (この「Ving」は動名詞とも現在分詞とも解釈できます)。例文で確認しましょう。

⑥ While playing basketball, Joe twisted his ankle.

⇒ 以下の最中に・プレイしている・バスケットボールを・Joe はねじった・彼の足首を。  
→ バスケットをしている最中に、Joe は足首を捻挫した。

⑦ The public tends to panic when facing a major disaster.

⇒ 大衆は傾向がある・パニックになる・以下の時には・直面する・大きな災害に。  
→ 一般大衆は大災害に直面するとパニックに陥りがちだ。

●● VOCABULARY

□ get

動 ((第4文型)) …に～を手に入れて [買って、持ってきて] やる (\* Lesson 43 ②)

□ battery [bætəri]

名 電池、バッテリー (\* 例文②では複数形 (R8 ③))

□ however [hauevə]

副 しかしながら (\* but よりフォーマルな語)

□ pass [pæs | pɑ:s]

動 経過する、通過する、…を通り過ぎる

□ condition [kəndiʃən]

名 状態、健康状態、状況、環境、条件

- grow** 動 ((第2文型)) …になる (同 **get, become**)  
\*例文③の grew は過去形 (R13【A-B-C 型】)
- serious** [sɪəriəs | sɪəriəs] 形 真剣な、本気の、深刻な、重大な
- let ... know ( ~ )** 動 …に( ~を)知らせる (\*例文④の know は自動詞)
- find ( ... ) out** 動 (<情報>を) 見つけ出す [知る]、(…が)わかる
- select** [sɪlekt] 動 …を(入念に)選ぶ (名 **selection** 選択)
- answer** [ˈænsər | ʌnsər] 名 答え、返答、返事 動 (…に)答える [応答する]
- There is no Ving.** 慣 Vすることはできない。( \* no は動名詞の Ving を修飾。「Vすることは存在しない」が直訳)
- go back** 動 戻る、さかのぼる、帰る
- twist** [twɪst] 動 …をねじる、…を捻挫する
- ankle** [ˈæŋkl] 名 足首 (名 **wrist** [rɪst] 手首)
- the public** [pʌblɪk] 名 大衆、公衆、一般市民 [国民]
- tend to Vb** 動 Vする傾向がある、Vしがちだ
- panic** [ˈpænik] 動 パニックに陥る 名 パニック、狼狽
- face** [feɪs] 動 …に顔を向ける、…に向く、…に直面する
- major** [ˈmeɪdʒər] 形 大規模な、主要な、重要な (反 **minor** [ˈmaɪnər] 小さな、重要でない)
- disaster** [dɪzəstər | -ɑːstər] 名 災害、災難、惨事、最悪の事態

# Lesson 131

## 👉 時の接続詞と同じ働きをする語句

次の表現には、Chapter 11 で学習した「先行詞 + 形容詞節」が含まれています。

### by the time (that) he turns 35

- ⇒ 時まで・(すなわちその時に) 彼がなる・35歳に
- 彼が35歳になるまでに

そして、次の例文では、この表現が副詞として動詞句を修飾しています。

### ① His goal is to lose another 10 lbs. by the time he turns 35.

- ⇒ 彼の目標は減らすことだ・あと10ポンドを・以下の時まで・(すなわちその時に) 彼がなる・35に。
- 彼の目標は、35歳になるまでに体重をあと10ポンド減らすことだ。

つまり、下線部(赤)の「前置詞 + 先行詞 + 形容詞節」は全体として「副詞節」と同じ働きをし、by the time という「前置詞 + 先行詞」は「接続詞」と同じ働きをしています。もう一つ例を見てみましょう。

### at the moment he appeared

- ⇒ 瞬間に・(すなわちその時に) 彼が現れた
- 彼が現れた瞬間に
- \* he の前には関係副詞 that が省略されています。

これも「前置詞 + 先行詞 + 形容詞節」の表現で、全体として副詞節と同じように文を修飾します。

### ② The moment he appeared, everyone burst into laughter.

- ⇒ 以下の瞬間に・(すなわちその時に) 彼が現れた・全員がはじけた・笑いの中へと。
- 彼が現れた瞬間に、全員がどっと笑った。
- \* at the moment he appeared や on the day before yesterday (一昨日に) のような「the + 時の名詞 + 修飾語句」の前に置かれる前置詞は省略するのが一般的です。

②でも、The moment は「接続詞」と同じ働きをしています。このように、「(前置詞+) 先行詞」が「接続詞」と同じ働きをする表現には次のようなものがあります (全て「時」の表現です)。

by the time (that)	+ 文	(～する時まで)
the moment (that)		(～した瞬間に)
the minute (that)		(～した瞬間に)
every time (that)		(～するたびに)
each time (that)		(～するたびに)
the next time (that)		(次に～する時に)
now that		(～した今は、今(では)～だから)

(注) 一般に、now that の that は省略しませんが、他の表現の that は省略します。また、by the time (that) の by は省略できません(「までに」という意味が失われるからです)。moment、minute の代わりに instant、second を用いることもあります。the moment (that)、the minute (that) は as soon as とほぼ同じ意味です。

### ③ Mr. Sato, you are better every time I see you.

⇒ Sato さん・あなたは良くなっている・以下の全ての時に・(すなわちその時に) 私が会う・あなたに。

→ Sato さん、あなたは会うたびに上達していますよ。

\* every time は each time に置き換えることができます。

### ④ How do you pass the time now that you are retired?

⇒ どのようにして・あなたは・過ごしていますか?・時間を・現在・すなわちその時に・あなたは引退している。

→ 引退なさった今、どのように時間をお過ごしですか?



●● NOTE 時の副詞節での未来の表し方

Lesson 129 ①、Lesson 130 ②④、Lesson 131 ①の副詞節に注目してください。これらの副詞節は「未来」の行為や出来事を述べていますが、「現在形」で表現されています。これは、「時の副詞節」で未来のことを表す場合、未来を示す語句(will など)がなくても、それが未来のことだとわかるからです。「時の副詞節では未来のことを現在形で表す」ということを覚えておいてください。

時の接続詞 主語 + **現在形**

↑  
when, before, until, after,  
as soon as, by the time など

「現在 (の習慣)」だけでなく  
「未来」も表す。

●● VOCABULARY

- |  |   |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> <b>another</b> 複数数詞 + 複数名詞        | <b>名</b> あと [さらに] <複数数詞> の <複数名詞> (* another は「(可算名詞の) 単数形」を修飾するのが原則だが、この表現は例外) |
| <input type="checkbox"/> <b>lb.</b> [páund]                | <b>名</b> (重量単位の) ポンド (* 複数形は lbs. [páundz])                                     |
| <input type="checkbox"/> <b>turn</b>                       | <b>動</b> …になる、…に変わる (* Lesson 33 の表)  |
| <input type="checkbox"/> <b>appear</b> [əpiə]              | <b>動</b> 現れる、出現する、登場する ( <b>名</b> <b>appearance</b> [əpiərəns] 出現、登場、外観、外見)     |
| <input type="checkbox"/> <b>burst into</b> … [bá:rst]      | <b>動</b> 突然…の状態になる、突然…し始める (* 例文 ②の burst は過去形です)                               |
| <input type="checkbox"/> <b>laughter</b> [lá:ftə   lá:ftə] | <b>名</b> 笑い、笑い声 ( <b>動</b> <b>laugh</b> 笑う)                                     |
| <input type="checkbox"/> <b>pass the time</b>              | <b>動</b> 時を過ごす ( <b>同</b> <b>spend one's time</b> )                             |
| <input type="checkbox"/> <b>retired</b> [ritaiəd]          | <b>形</b> 引退 [退職] した ( <b>動</b> <b>retire</b> 引退 [退職] する)                        |

# Lesson 132

## 👉 場所の接続詞

「場所」を表す接続詞には次のようなものがあります。

where	+ 文	(～する所に〔へ〕)
wherever		(～するどこ(へ)でも)
everywhere		(～するどこ(へ)でも)
anywhere		(～するいかなる所(へ)も)

副詞節(下線部(赤))に注意して各例文を読んでみましょう。

### ① I've hidden it where no one will find it.

- ⇒ 僕は隠したところだ・それを・以下の所に・無の人が(将来)見つける・それを。  
 → 誰にも見つからない所に隠しておいたよ。  
 \* will は将来のことを表しています。

### ② Where there's a will, there's a way, as they say.

- ⇒ 以下の所に・存在する・意志が・存在する・道が・と人々は言うが。  
 → よく言うように、意志があれば道は開けるのです。

### ③ Sandy was asked for her autograph wherever she went.

- ⇒ Sandy は頼まれた・彼女のサインを・以下のどこでも・彼女が行った。  
 → Sandy はどこへ行ってもサインを求められた。  
 \* wherever は everywhere に置き換えが可能です。

④ Please feel free to sit anywhere you like.

⇒ どうぞ感じてください・自由だと・座るのが・以下のどこでも・あなたが好む。

→ どうぞ遠慮せず、どこでも好きな所に座ってください。

\* every は複数のイメージで any は単数のイメージです。ここでの「座る場所」は1つ(単数)なので、everywhere ではなく anywhere とします。

\* 下線部(赤)は anywhere you like to sit の to sit が省略されています。

●● VOCABULARY

- |  |  |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> <b>hide</b> [háid]          | 動 隠れる、…を隠す、…を隠蔽する (*過去形は hid、過去分詞は hidden。R13 を参照)         |
| <input type="checkbox"/> <b>will</b>                 | 名 意志、精神力、遺言(状) (*例文②の will)                                |
| <input type="checkbox"/> <b>way</b>                  | 名 道、(進む) 方向、方法、手段  |
| <input type="checkbox"/> <b>as they say</b>          | 副 よく言うように、よく言うことだが (* they は「(世間の) 人々」という意味)               |
| <input type="checkbox"/> <b>ask ... for ~</b>        | 動 …に~を求める [頼む] (*例文③は「…」が主語に移った受動態) (動) ask for ... …を求める) |
| <input type="checkbox"/> <b>autograph</b> [ɔ:tagræf] | 名 (有名人の) サイン (名) signature [signatʃə] (文書・小切手などにする) サイン)   |
| <input type="checkbox"/> <b>feel free to Vb</b>      | 動 自由にVする、遠慮なくVする (* Feel free. で「ご自由に」「ご遠慮なく」という意味)        |

# Lesson 133

## 理由と目的の接続詞

このレッスンでは、「理由」と「目的」を表す接続詞について学習します。まず、「理由」を表す接続詞には次のようなものがあります。

because		+ 文	(～なので)
since			(～なのだから、～である以上)
as			((ちなみに)～なので)

**because** は理由を表す時に最もよく用いられる接続詞です。理由の意味しかないため、複数の意味をもつ **since** や **as** よりも理由の意味が強調されます。理由を明確に示す場合や、相手が知らない理由を述べる場合に **because** を用います。**because** が導く副詞節は修飾する文の「後ろ」に置くのが一般的です。

### ① Mike made up a story because he was afraid of being scolded.

- ⇒ Mike はでっちあげた・話を・以下の理由で・彼は怖かった・叱られることが。  
→ Mike は、叱られるのが怖かったので、話をでっちあげた。  
\* being scolded は「動名詞の受動態」です (Lesson 87 の 1 番目の表)。

### ② "Why did you do that?" "Because you told me to."

- ⇒ 「何故・君はしたのか・そんな事を」「何故なら・あなたが言った・私に・そうするよう」  
→ 「何故そんなことをしたんだね?」「そうしるとおっしゃったからです」  
\* 2 番目の文は I did it because you told me to. の下線部が省略されています。また、to の後ろには重複する do it が省略されています (「to 動詞の原形」の「動詞の原形」が重複する場合は to だけを残すのが原則です)。

例文②では「相手が知らない理由」を述べているので **because** が使われています。**since** は「相手が知っている(であろう)こと」を示し、そこから結論へと導く場合に用います。**since** の副詞節は修飾する文の「前」に置くのが一般的です。

### ③ Since you're here, how about doing some sightseeing?

- ⇒ 以下なのだから・あなたはいる・ここに・いかがですか?・するのは・幾分かの観光を。  
→ せっかくこちらへいらしたのだから、観光でもなさってはいかがですか?

as は理由を補足的に述べる場合に用います。

④ Take care in the woods, as the path is narrow in places.

⇒ 注意してください・森の中では・以下なので・道が狭い・所々で。

→ 森の中では注意してください。道幅の狭い所がありますから。

\* as の副詞節を修飾する文の「後ろ」に置く場合は、(補足情報であることを示す)カンマを置くのが一般的です。

次は「目的」を表す接続詞です。目的は **so (that)** で表します (that は会話ではよく省略されます)。so (that) が導く副詞節は修飾する文の「後ろ」に置きます。

**so (that) S can Vb** (S が V できるように)

**so (that) S will Vb** (S が V する (ことになる) ように)

**so (that) S won't Vb** (S が V しないように)

会話では、上記の「will Vb」「won't Vb」の代わりに「現在形」を用いることがあります (つまり、「will Vb」は「現在形の V」に、「won't Vb」は「do(es)n't Vb」にすることがあります。特に後者の否定形で現在形がよく用いられます)。

⑤ Label the boxes so that you can easily find what you need.

⇒ ラベルを貼ってください・箱に・以下の目的で・あなたができる・簡単に見つけることが・ものを・あなたが必要とする。

→ 必要なものがすぐに見つけられるように、箱にラベルを貼ってください。

\* can easily find のように、助動詞と動詞の原形の間には副詞を置くことができます (「副詞を置く位置」については R23 を参照)。

\* what you need は「あなたが必要とするもの」という名詞節で find の目的語です。

⑥ "Why do we brush our teeth?" "So we don't get cavities."

⇒ 「なぜ・僕達は磨くのですか?・僕達の歯を」「以下のためにです・私達が得ないように・虫歯を」

→ 「歯を磨くのはなぜ?」「虫歯にならないようにするためよ」

\* この文は、We brush our teeth so we don't get cavities. の下線部が重複するので省略されたものです。

●● VOCABULARY

- |  |  |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> <b>make ... up</b>                | <b>動</b> ...を作り [でっち] あげる、...を穴埋めする                          |
| <input type="checkbox"/> <b>be afraid of ...</b> [ə'fréid] | <b>動</b> ...を怖がっている、...を恐れている                                |
| <input type="checkbox"/> <b>scold</b> [skóuld]             | <b>動</b> ...を叱る、...を叱りつける                                    |
| <input type="checkbox"/> <b>tell ... to Vb</b>             | <b>動</b> ...にVするように言う (* Lesson 49 の表)                       |
| <input type="checkbox"/> <b>How about Ving?</b>            | <b>慣</b> Vするというのはどうですか?                                      |
| <input type="checkbox"/> <b>sightseeing</b> [saitsi:iŋ]    | <b>名</b> 観光、見物、遊覧  |
| <input type="checkbox"/> <b>take care</b>                  | <b>動</b> 注意 [用心] する、気をつける (同 <b>be careful</b> )             |
| <input type="checkbox"/> <b>the woods</b> [wúdz]           | <b>名</b> 林、森 (同 <b>the wood</b> )                            |
| <input type="checkbox"/> <b>path</b> [pæθ   pá:θ]          | <b>名</b> 小道、細道、散歩道、遊歩道、道筋                                    |
| <input type="checkbox"/> <b>narrow</b> [nærou]             | <b>形</b> 幅が狭い (* 「面積が狭い」は small)                             |
| <input type="checkbox"/> <b>label</b> [léibəl]             | <b>動</b> ...にラベル [札、付箋] を貼る <b>名</b> ラベル、札                   |
| <input type="checkbox"/> <b>brush</b> [brʌʃ]               | <b>動</b> ...にブラシをかける、<歯>を磨く <b>名</b> ブラシ、ヘアブラシ、歯ブラシ、はけ、絵筆、画筆 |
| <input type="checkbox"/> <b>teeth</b> [ti:θ]               | <b>名</b> (複数の) 歯 (* tooth の複数形)                              |
| <input type="checkbox"/> <b>cavity</b> [káevəti]           | <b>名</b> 虫歯 (の穴)、空洞  |

# Lesson 134

## 👉 条件の接続詞

「条件」を表す接続詞には次のようなものがあります。

if	+ 文	(もし~したら、たとえ~しても)
even if		(たとえ~しても)
unless		(~しない限りは、~するなら別だが)
as long as		(~する限りは、~しさえすれば)

(注) as long as を so long as と言うことがあります。

それぞれ例文で確認しましょう。

### ① "Do you mind if I smoke?" "Well, yes. Actually I do mind."

⇒ 「あなたは困りますか? ・以下だとしたら、私がタバコを吸う」「えーっと・はい。実際のところ・私は困ります」

→ 「たばこを吸ってもかまいませんか?」「あー、いいえ、実際のところ、困ります」

\* Do you mind? (困りますか?) への返答は、Yes なら「困る」、No なら「困らない」。

### ② Even if I do everything his way, he is still dissatisfied.

⇒ たとえ以下だとしても・私が行う・全てを・彼のやり方で・彼はそれでも不満だ。

→ たとえ全て彼の言う通りにやっても、それでも彼は満足しないんです。

\* Even if は If に置き換えが可能ですが、「たとえ」という意味は弱くなります。

### ③ You'll get fired if you don't get your work done.

⇒ 君は(将来)なる・首にされた状態に・仮に以下だとしたら・君がしない・君の仕事が・なされた状態に。

→ きちんと仕事をしなかったら、(その結果) 君はクビになるよ。

### ④ You'll get fired unless you get your work done.

⇒ 君は(将来)なる・首にされた状態に・以下でない限りは・君がする・君の仕事が・なされた状態に。

→ きちんと仕事をしない限り、(このままだと) 君はクビだよ。

⑤ I don't care what you do as long as it doesn't affect me.

⇒ 僕は気にしない・何を君がするかを・以下である限り・それが影響を及ぼさない・僕に。

→ 君が何をしようとかまわないさ。僕に影響が及ばない限りはね。

\* as long as を if に置き換えてもほぼ同じです。if は「単なる条件」を表すのに対し、as long as は「この条件さえ満たせば」という「唯一の条件」を表します。

●● NOTE 条件の副詞節での未来の表し方

「時」の副詞節と同様 (Lesson 131 [NOTE])、「条件」の副詞節でも、「未来」のことを「現在形」で表します。例文①③④の副詞節は「未来」に起こり得ることでありますが、動詞が現在形になっています。これは、「条件」の副詞節で未来のことを表す場合、未来を示す語句 (will など) がなくても、それが未来のことだとわかるからです (未来のことを現在形で表すのは「時」と「条件」の副詞節に限られます)。

条件の接続詞 主語 + 現在形

「現在」だけでなく  
「未来」も表す。

●● VOCABULARY

- |   |  |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> <b>Do you mind if ~ ?</b>          | <b>慣</b> ~ならあなたは困りますか [気に障りますか、嫌ですか]? (*この mind は自動詞)                            |
| <input type="checkbox"/> <b>actually</b> [æktʃuəli]         | <b>副</b> 現実 [実際] には ( <b>形</b> actual 現実 [実際] の)                                 |
| <input type="checkbox"/> <b>do Vb</b>                       | <b>動</b> ((否定 (don't Vb) ではなく "肯定" であることを強調 [明示] する場合や、命令文で「是非とも」と語気を強める場合に用いる)) |
| <input type="checkbox"/> <b>(in) one's way</b>              | <b>副</b> …のやり方で、…がしたい [望む] ように   |
| <input type="checkbox"/> <b>dissatisfied</b> [dissætɪsfaɪd] | <b>形</b> 不満な、不服な (* dis- は反意語を作る)  |
| <input type="checkbox"/> <b>get Vp.p.</b>                   | <b>動</b> Vされる (* Lesson 59 ①②)   |
| <input type="checkbox"/> <b>fire</b> [faɪə]                 | <b>動</b> …を首にする、(…を) 発砲する  |
| <input type="checkbox"/> <b>get ... done</b>                | <b>動</b> …をやり遂げる [仕上げる、済ませる]   |
| <input type="checkbox"/> <b>care</b> [keə]                  | <b>動</b> 気にする、気にかける <b>名</b> 注意、用心、世話  |
| <input type="checkbox"/> <b>affect</b> [əfekt]              | <b>動</b> …に影響を及ぼす ( <b>名</b> effect [ɪfekt] 影響)                                  |



# Lesson 135

## 方法・様態の接続詞

「～のように」という「方法・様態」を表す接続詞には次のようなものがあります。

as		(～のように)
the way		(～の方法で、～のように)
like	+ 文	(～のように)
as if		(まるで～かのように)
as though		(まるで～かのように)

(注) the way は in the way that の in と that が省略されたものです。

(注) like を接続詞で用いるのはくだけた会話においてです。like は前置詞が原則なので、接続詞で用いることに抵抗を感じるネイティブスピーカーもいます。

(注) as if と as though の文が事実と反することを述べている場合は仮定法にします(仮定法は Chapter 15 で学習します)。

それぞれ例文で確認しましょう。

### ① Do as you're told and don't complain.

⇒ しなさい・以下のように・君が言われる・そして・文句を言うな。

➔ 言われたようにして、文句は言わないの。

\* 文頭の Do は自動詞です。

### ② As I said earlier, I oppose the construction of this highway.

⇒ 以下のように・私が言った・以前に・私は反対する・建設に・この幹線道路の。

➔ 前にも言いましたが、私はこの幹線道路の建設には反対です。

\* As I said earlier はくだけた会話では Like I said earlier とすることもできますが、その場合、慣用的に earlier を省略して Like I said とするのが一般的です。

### ③ I'm happy with myself just the way I am.

⇒ 私は幸せだ・私自身に対して・まさに以下の様態で・私が今ある。

➔ 私は今のままの自分で幸せです。

\* just は the way を修飾しています。

④ Ben looked like he was about to cry.

⇒ Ben は表情だった・以下のような・彼が寸前である・泣くことの。

→ Ben は今にも泣き出しそうな顔をしていた。

\* like (くだけた言い方) は as if, as though に置き換えることができます。

⑤ Betty behaves as if she were superior to me.

Betty behaves as though she were superior to me.

⇒ Betty は振る舞う・まるで以下のように・彼女がより優れている・私よりも。

→ Betty はまるで自分が私より優れているかのように振る舞うのよ。

\* 下線部 (赤) は現在の事実と反することなので仮定法過去で表現されています。  
were を was にすることもできます (仮定法過去は Lesson 161 で学習します)。

●● VOCABULARY

- |  |   |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> <b>complain</b> [kəmpleɪn]        | 動 不平 [不満、文句、苦情] を言う (名 <b>complaint</b> [kəmpleɪnt] 不平、不満)          |
| <input type="checkbox"/> <b>earlier</b> [ɛːrliə]           | 副 以前に、前に (同 <b>previously</b> [prɪːviəslɪ])                         |
| <input type="checkbox"/> <b>oppose</b> [əpəʊz]             | 動 …に反対する (名 <b>opposition</b> [əpəzɪʃən] 反対)                        |
| <input type="checkbox"/> <b>construction</b> [kənstrʌkʃən] | 名 建設、建造、建築、建造物、構造 (動 <b>construct</b> [kənstrʌkt] …を建設 [建造] する)     |
| <input type="checkbox"/> <b>highway</b> [haɪweɪ]           | 名 ((米)) (町や都市を結ぶ) 幹線道路、主要道路 (名 <b>expressway</b> [ɪksprɛsweɪ] 高速道路) |
| <input type="checkbox"/> <b>be happy with</b> …            | 動 …に幸せ [満足] だ (同 <b>be satisfied with</b> …)                        |
| <input type="checkbox"/> <b>be about to Vb</b>             | 動 Vする寸前である、ちょうどVしようとしているところだ (同 <b>be ready to Vb</b> )             |
| <input type="checkbox"/> <b>behave</b> [bihɛv]             | 動 振る舞う、態度を取る、行儀良くする   |
| <input type="checkbox"/> <b>be superior to</b> …           | 動 …より上位である、…より優れている   |
| [səpɪəriə]   | (反 <b>be inferior to</b> … [ɪnfɪəriə] …より劣っている)                     |

# Lesson 136

## 譲歩と対比の接続詞

「～ではあるが」という「譲歩」、並びに、「～である一方」という「対比」を表す接続詞には次のようなものがあります。

although	+ 文	(～だが)
even though		(～だが)
though		(～だが)
while		(～である一方、～だが)

「譲歩」の although、even though、though の3つは同じ意味です (although は even though や though よりもフォーマルなことばです)。これらの副詞節を修飾する文の「前」に置く場合は、although が最もよく用いられます。

① Although it is not without risk, he intends to carry it out.

⇒ 以下だが・それは・ではない・リスクが無い・彼はつもりだ・実行する・それを。  
→ それにリスクがないわけではないが、彼はそれを実行するつもりだ。

「譲歩」の副詞節を修飾する文の「後ろ」に置いて「但し～だが」と付加的に用いる場合は、接続詞の前に(補足であることを示す)カンマを置くのが一般的です。

② I managed a smile, even though I didn't feel like it.

I managed a smile, though I didn't feel like it.

⇒ 私は何とか行った・微笑むことを・以下だが・私は気が向かなかつた・それに。  
→ 私は何とか微笑んでみせた。そんな気分ではなかったのだが。  
\* 接続詞を although にすることもできます(やや堅い言い方になります)。

また、「though + 主語 + be 動詞 + 形容詞」の形ではよく、「主語 + be 動詞」を省略します。次の例文では、though の後ろに he is が省略されています。

③ Fred is an ideal husband, though a little bit boring.

⇒ Fred は理想的な夫だ・以下ではあるが・ほんの少し退屈な。  
→ Fred は理想的な夫よ。ほんの少し退屈だけど。

2つの事柄を「対比」する場合は while を用います。

④ Some sharks give birth to babies, while others lay eggs.

- ⇒ 一部のサメは与える・誕生を・子供に・以下である一方で・他のものは生む・卵を。  
→ サメの中には、子供を産むものもいれば、卵を産むものもいるんだよ。  
\* while ~ を文の後ろに置く場合は while の前にカンマを置くのが一般的です。

●● VOCABULARY

- |   |   |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> <b>be not without</b> ...          | <b>動</b> ...がないわけではない                                     |
| <input type="checkbox"/> <b>intend to Vb</b> [intend]       | <b>動</b> Vするつもりである、Vする意向 [予定] だ                           |
| <input type="checkbox"/> <b>carry ... out</b>               | <b>動</b> ...を実行する、...を遂行する                                |
| <input type="checkbox"/> <b>manage</b> [mænidʒ]             | <b>動</b> なんとか...を行う、なんとかそれを行う                             |
| <input type="checkbox"/> <b>feel like</b> ...               | <b>動</b> (1) ...をしたい気分だ、(2) ...になったような気分だ (*「...」は名詞か動名詞) |
| <input type="checkbox"/> <b>ideal</b> [aɪdɪəl] <ɪəl>        | <b>形</b> 理想的な <b>名</b> 理想                                 |
| <input type="checkbox"/> <b>husband</b> [hʌzbənd]           | <b>名</b> 夫 (反 <b>wife</b> 妻)                              |
| <input type="checkbox"/> <b>a little bit</b>                | <b>副</b> ほんの少し、少々 (同 <b>a little, a bit</b> )             |
| <input type="checkbox"/> <b>boring</b> [bɔ:riŋ]             | <b>形</b> 人を退屈させる (形 <b>bored</b> 退屈している)                  |
| <input type="checkbox"/> <b>Some ... V, others V'.</b>      | <b>慣</b> Vする...もあれば V' するものもある。                           |
| <input type="checkbox"/> <b>give birth (to ...)</b> [bɜ:rθ] | <b>動</b> (...を) 出産する、(...を) 生み出す                          |
| <input type="checkbox"/> <b>lay an egg</b>                  | <b>動</b> 卵を産む (*「卵を <u>横た</u> える」から)                      |

# Lesson 137

## 👉 無関係の接続詞

「～に関係なく」という「無関係」を表す接続詞は *whether* と *no matter* です。まずは、**whether** の使い方から見てみましょう。

**whether** ~ **or** ... (～であれ…であれ関係なく [いずれにせよ])

名詞節の「*whether* ~」(Lesson 110, 111) は *or* が不要な場合がありますが、副詞節では必ず *or* が必要です。また、この副詞節では、*whether* の後ろが副詞や副詞句になることがあります。次の例文で確認しましょう。

① Whether we do it now or later, it has to be done sometime.

Whether now or later, it has to be done sometime.

⇒ 以下に関係なく・我々が行うか・それを・今・それとも・後で・それはされねばならない・いつかは。

→ 今やるにせよ、後でやるにせよ、いつかはそれをしなければなりません。

② Our industry is changing, whether we like it or not.

⇒ 我々の産業は変化している・以下に関係なく・我々が好むか・それを・もしくは否か。

→ 我々の産業は、否応なく変化しているのです。

\* 代名詞の *it* は下線部 (黒) 全体を指しています。

次は、**no matter** を用いた副詞節です。*no matter* は「～に関係なく」という意味で後ろに「間接疑問文」(Lesson 112) をとります。*what*、*who*、*where*、*how* の間接疑問文の場合は、次のようになります。

**no matter**

- |                    |                                      |
|--------------------|--------------------------------------|
| <b>what</b> ~      | (何を [が] ~かに関係なく)                     |
| <b>what</b> <名詞> ~ | (どんな<名詞>を [が] ~かに関係なく)               |
| <b>who</b> ~       | (誰が ~かに関係なく)                         |
| <b>where</b> ~     | (どこに ~かに関係なく)                        |
| <b>how</b> ~       | (どのくらい ~かに関係なく /<br>どのようにして ~かに関係なく) |

no matter の後ろの間接疑問文に注意して、次の例文を読んでください。

③ No matter what I say, he always objects.

⇒ 以下に関係なく・何を・私が言うか・彼はいつでも異議を唱える。

→ 私が何を言っても、彼は必ず異議を唱えます。

④ I can't concentrate on studying, no matter how hard I try.

⇒ 私は集中できない・勉強することに・以下に関係なく・どれだけ懸命に・僕が頑張るか。

→ 僕はどんなに頑張っても勉強に集中できないんだ。

「no matter + 疑問詞」は「疑問詞 ever」に置き換えが可能です（「疑問詞 ever」の方が口語的です）。例えば、「no matter what」は「whatever」に、「no matter when」は「whenever」に、「no matter where」は wherever (Lesson 132 ③) に置き換えが可能です。例文③は Whatever I say に、④は however hard I try になります。以下は whatever と whenever の例です。

⑤ Whatever choice you make, I'll stand by you.

⇒ どんな選択をかに関係なく・あなたが行う・私は応援する・あなたを。

→ あなたがどんな選択をしても、私はあなたを応援します。

\* 下線部(赤)は No matter what choice you make に言い換えが可能です (what は choice を修飾)。

⑥ Don't hesitate to post whenever you have a question.

⇒ ためらわないでください・書き込むことを・以下の時に関係なく・あなたが持っている・質問を。

→ いつでも、質問があれば、遠慮なく書き込んでください。

●● VOCABULARY

- **sometime** [sámtáim] 副 いくつか(は)、ある時 (\* sometimes(時々)との違いに注意)
- **industry** [indástri] 名 産業、業界、工業 (形 **industrial** 産業[工業]の)
- **object** 動 [ábɔʒékt] 異議を唱える、反対する、抗議する  
名 [ábɔʒikt | ɔb-] 物、物体、対象、目的、目的語
- **concentrate (on ...)** 動 (...に) 集中する (名 **concentration** [kánsntréiʃn | kón-] 集中)
- **choice** [tʃóis] 名 選択 (動 **make a choice** 選択を行う)
- **stand by ...** 動 ...のそばに立つ、...を応援[支援]する
- **hesitate to Vb** [hézətéit] 動 Vすることをためらう [躊躇する]
- **post** [póust] 動 (...を) ネット上で書き込む[投稿する]、((英)) ...を郵送する 名 ネット上での書き込み[投稿] (\*例文⑥では自動詞)

This will be a challenging year as far as your career is concerned.

# Lesson 138

## 👍 範囲と程度の接続詞

最後は、「範囲」と「程度」の接続詞です。「～する範囲では」「～する限りでは」という「範囲」は **as far as** (so far as とすることもあります) で表します。これは主に次のような表現で用います。例文と共に確認してください。

<b>as far as</b> I know	(私の知る範囲では、私の知る限り)
<b>as far as</b> I can remember	(私の記憶の範囲では)
<b>as far as</b> I can tell [see]	(私にわかる範囲では)
<b>as far as</b> ... is concerned	(…に関する限り、…のことで言えば)

① "Is he against it?" "No. As far as I know, he's for it."

⇒ 「彼は反対ですか? ・それに」「いいえ。以下の範囲では・私が知っている・彼は賛成です・それに」

➔ 「彼はそれに反対なのかい?」「いいえ。私の知る限り、彼はそれに賛成です」

② This will be a challenging year as far as your career is concerned.

⇒ これはなる・挑戦し甲斐のある年に・以下の範囲では・あなたの仕事に関係する。

➔ 今年は、仕事面では、チャレンジの年になるでしょう。

「程度」の表現は「so ... that ~」と「such ... that ~」がよく用いられます。これは「結果として～するほどとても…」という意味です(「とても…なので～」と訳してもかまいませんが、あくまで「程度」に重点があります)。「…」部分に「形容詞」か「副詞」だけを置く場合は so を用い、「形容詞+名詞」を置く場合は such を用います。

<b>so</b> 形容詞	(that) ~ ((結果的に)～するほどとても…)
<b>so</b> 副詞	
<b>such</b> 形容詞+名詞	

(注) 会話ではしばしば that が省略されます。



次の③は「**形容詞**」、④は「**副詞**」なので、so が用いられています。

③ I was **so busy** **that** I barely had time to catch my breath.

形容詞

- ⇒ 私はとても忙しかった・以下であるほど・私がほとんど持たなかった・時間を・つかむための・自分の息を。  
→ ほとんど息をつく暇もないぐらい忙しかったよ。

④ Technology is advancing **so quickly** **that** I can scarcely keep up.

副詞

- ⇒ 科学技術は進歩している・とても急速に・以下であるほど・私がほとんどできない・ついていくことが。  
→ 科学技術の進歩は私にはついて行きがたいほど急速だ。

次は「**形容詞+名詞**」なので、such が用いられています。

⑤ Typing is **such a basic skill** **that** we take it for granted.

形容詞+名詞

- ⇒ タイピングはとても基本的な技能だ・以下であるほど・我々が受けとめている・それを・(身に付いていて)当たり前だと。  
→ タイピングは出来て当たり前なくらい基本的な技能です。

但し、「**形容詞+名詞**」の「**形容詞**」が数量の大小を表す **many**、**much**、**few**、**little** である場合は、such ではなく so を用います。

⑥ There was **so much fog** **that** Bob couldn't make out the road signs.

much + 名詞

- ⇒ あった・とても多くの霧が・以下であるほど・Bob が判読できない・道路標識を。  
→ 霧が非常に濃く、Bob は道路標識がはっきり見えなかった。

●● VOCABULARY

- be against** ... [əgə(i)nst] 動 …に反対である
- be for** ... 動 …に賛成である
- challenging** [tʃælɪndʒɪŋ] 形 挑戦し甲斐のある、困難だが面白い [やり甲斐のある]、チャレンジの
- career** [kəˈrɪər] 名 (一生の仕事とする) 職業、専門的な職業
- barely** [bɛərli] 副 かるうじて、ほとんど…ない (同 **hardly**)
- catch one's breath** [bréθ] 動 ひと息つく [入れる]、息をのむ、息が正常に戻る (名 **breath** 息 動 **hold one's breath** 息を止める、息をのむ)
- technology** [tek'nɒlədʒi] -nɒl- 名 科学技術、テクノロジー (形 **technological** [tek'nɒlədʒɪkəl] [-lədʒi-] 科学技術 [テクノロジー] の)
- advance** [əd'vɑ:ns] [əd'vɑ:nɪs] 動 前進する、進歩する、…を前へ進める 形 あらかじめの、事前の
- scarcely** [skɛərsli] 副 ほとんど…ない (同 **hardly**)
- keep up (with ~)** 動 (…に) 遅れずについて行く
- type** [taɪp] 動 (キーボードで語句などを) タイプする、〈文字〉をタイプする (\*例文⑤では動名詞) (動 **text** [tɛkst] 携帯でメールを打つ)
- basic** [beɪsɪk] 形 基礎の、基本的な 名 基礎、基本
- skill** [skɪl] 名 (訓練や経験で身に付く) 技能、技術 (形 **skillful** 熟練した、腕の良い、巧みな)
- take ... for granted** [grɑ:ntɪd | grɑ:n-] 動 …を当然 [常識、当たり前] だと思う (\*「take ... for ~」は「…を~と受けとめる」)
- fog** [fág, fɔ:g | fɔ:g] 名 (濃い) 霧 (名 **mist** (薄い) 霧)
- make ... out** 動 …を識別する、…を判読する、…を見分ける、…を聞き分ける
- sign** [saɪn] 名 記号、標識、表示、看板、貼り紙、ネオンサイン、合図、形跡、兆候 動 (…に) 署名する